

つながって
ささえあう社会へ立憲民主
RIKKEN MINSHU

石橋みちひろ 3期目始動

日頃より、立憲民主党並びに参議院比例第7総支部へのご支援・ご協力、本当にありがとうございます！そしてあらためまして、大変多くの皆さんに応援をいただき、参議院議員として3期目のスタートを切らせていただきましたこと、この場をお借りして御礼申し上げます。

さて、10月3日ようやく第210回臨時国会が開会しました。6月15日に通常国会が閉会してからおよそ4ヶ月近くの間、立憲民主党をはじめとする野党が8月に憲法53条に基づく臨時国会開会要求をしてもなお、実質的な国会審議は行われませんでした。この間、新型コロナウイルス感染症の第7波の感染爆発や、度重なる自然災害による甚大な被害、止まらない円安と物価・エネルギー価格の高騰、安倍元総理の国葬儀や旧統一教会にかかる諸問題などなど、国会が早急に対応すべき重要課題が山積していたにもかかわらず、これだけ長期に渡って国会が開かれなかったことは、明らかに政府・与党の責任放棄だと、強く糾弾せざるを得ません。

そうしてようやく始まった臨時国会も、すぐに前代未聞の事態に見舞われました。本来であれば、最初の週に岸田総理の所信表明演説とそれに続く衆参本会議での代表質問が行われた後、すぐに衆参両院で予算委員会での実質審議が行われるはずでした。ところが、その週に財務大臣が外遊することが臨時国会直前に判明し、なんと予算委員会が予定通り開催できなくなってしまったのです。こんなこと、あり得ないしあってはならないのですが、いかに今の政府・与党が国会を軽視しているかを露見させた騒動でした。



さらに、一週遅れて開催された予算委員会でも、啞然とするような事態が次々と起こったのです。今国会で最重要課題の一つとして議論されている旧統一教会に関わる問題で、なんと岸田総理が旧統一教会に対する解散命令請求の発動要件について一夜で答弁を180度修正するという問題が発生しました。また、旧統一教会との密接な関係が指摘をされていた山際経済再生担当大臣について、岸田総理が予算委員会で「解任しない」と答弁したそのわずか数時間後に、大臣を解任されて国会審議が止まるという事態も発生しました。さらに、寺田総務大臣や秋葉復興大臣らに次々と政治と金の問題が発覚しています。こうした失態で、本来、議論すべき重要課題についての審議が完全に停滞してしまっています。今、問われているのは、岸田総理の責任なのですが、事ここに至っても岸田総理のリーダーシップが見えないのは極めて残念です。

ところで、私はこの臨時国会から、立憲民主党参議院の国会対策委員長筆頭代理と、予算委員会の筆頭理事という二つの重責を担うこととなりました。国会の運営は、すべて与野党の国会対策委員会の協議・調整で動きますので、私もその国会運営の最前線で働いていくことになるわけです。また、最も注目される予算委員会で野党側の責任者を務めることになりましたので、向こう1年間は、予算委員会のテレビ中継など見ていただければ、私が必ず答弁者のすぐ隣、野党側の筆頭理事席に座っている姿を見ていただけたと思います。頑張ってお期待にお応えしていきますので、応援・激励を宜しくお願いします。

2022年11月吉日

立憲民主党 参議院比例第7総支部長

参議院議員 石橋みちひろ

石橋みちひろ プロフィール



■1965年7月1日、島根県安来市生まれ。松江市育ち。

■学歴

1988年 中央大学法学部法律学科卒業

1991年 米国アラバマ大学大学院修了(政治学修士号取得)

■職歴・議員歴

1992年～全電通(現NTT 労組) 中央本部勤務

2001年～国際労働機関(ILO) 勤務(イタリア、フィリピン勤務)

2009年～情報労連・NTT 労組 特別中央執行委員

2010年～参議院議員(比例全国区選出。現在3期目)

■主な役職等

●党役職：参議院国会対策委員長代理 / 島根県連代表代行 / 外国人受け入れ制度

PT座長

●所属委員会：厚生労働委員会 / 予算委員会(筆頭理事) / ODA沖縄北方特別

委員会(筆頭理事)

●議連：ILO 活動推進議連事務局長 / 教育ICT 利活用促進議連事務局長 / 非正

規雇用対策議連事務局長 / 沖縄等米軍基地問題 議員懇談会事務局長 / 他

Focus



「三期目」が本格始動！ 厚労委で「406日ぶり」の質問に立つ

石橋フォーカス



石橋議員は、昨秋以降の1年間、参議院経済産業委員長に就いたために国会質問に立てず、10月27日に参議院厚生労働委員会で質疑に立ったのが実に「406日ぶり」の国会質問でした。いよいよ三期目の本格始動です！

この日は、大臣所信に対する質疑。加藤厚労大臣とは、過去にも働き方改革関連法案などで激論を交わしてきました。「ご飯論法」と呼ばれる論点ずらしの答弁を行う反面、派遣労働の当事者との意見交換の場に出席してくれるなど評価できる面もある大臣です。この日の質疑では、過去のやり取りも踏まえ、1対1の政治家同士の論戦を加藤大臣に挑みました。

取り上げたのは、非正規を中心とした雇用問題や、医療・介護・年金に関して政府が検討を進めている改革案



についての問題認識など。特に、家事労働者が未だに労働基準法等の適用から除外されている問題については、大臣から早急に実態調査を行う旨の答弁を引き出すことが出来ました。まずは一歩前進です。

この1年、石橋議員は予算委、厚労委、ODA 及び沖縄北方特別委に所属します。この臨時国会でも、積極的に質問に立ちますので、ぜひ応援をお願いします！

Focus



旧統一教会の被害者を 救済するための法案を提出！

立憲民主党は、参院選後、いち早く「旧統一教会被害対策本部」を立ち上げ、旧統一教会による被害実態の解明と被害者の救済、そのための立法措置の検討等を進めてきました。石橋議員は、対策本部事務局長としてその活動に中心に関わり、二世被害者や有識者からのヒアリング、法案の検討を3ヶ月間、集中的に行い、10月17日に議員立法を国会に提出しました。

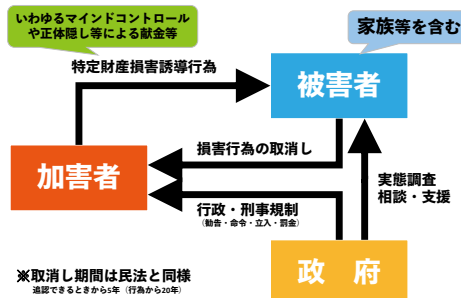
法案のポイントは大きく2つ。1つは、違法・不当な勧誘・洗脳手法で人をマインドコントロール下におき、多額の献金を行わせる行為を法律で明確に禁止し、そのような禁止行為に基づく献金は、ご家族を含めた被害者が取り戻せるようにしました。また、被害家族の保護や具体的な支援につながるような相談体制を構築し、具体的な救済に早期に道を開いていける規定も盛り込んでいます。

現在、今臨時国会中の法案成立をめざして、自民・公明・立憲・維新の四党が与野党協議を行っています。与党が極めて慎重な態度を崩しておらず、協議は

難航しています。しかし、被害者の救済は待ったなしですので、なんとかこの臨時国会中に成立させるべく、努力を続けていきます。



悪質献金被害救済法案



石橋みちひろの情報発信

公式Webサイト



Facebook



YouTube

